

ふくいじょうあと 10 福井城跡

所在地：福井市中央1丁目4番街区

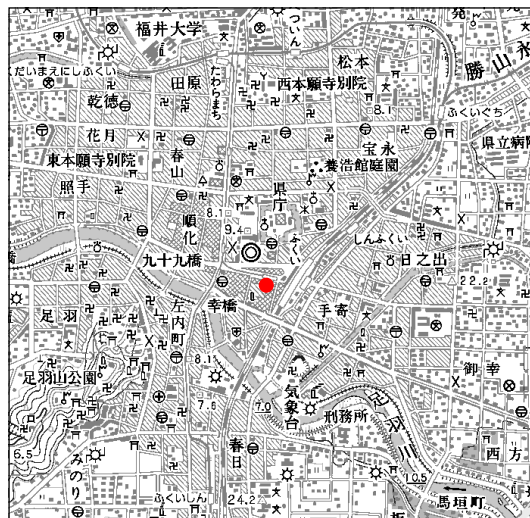
調査原因：市街地再開発事業

調査期間：令和3年5月～7月

調査主体：福井市教育委員会

調査面積：73 m²

時代：江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 福井城は、徳川家康の次男である結城秀康^{ゆうきひでやす}が越前に入国した慶長6（1601）年から6年の歳月をかけて築いた約2km四方の平城です。

調査は福井駅西口で、通称“三角地帯”において行いました。この場所は、福井城絵図と対照すると、百間堀^{ひゃっけんぼり}西岸の「南三の丸」に想定されます（図1参照）。

主な遺構 発掘調査は、中央1-341号線(別名“歴史の道”)より西を対象として、地下施設がない3カ所で武家屋敷跡、調査地に隣接する歩道で堀石垣の調査を実施しました（図2参照）。

武家屋敷跡の調査では、地面から2.5m下まで調査を行いましたが、近代の建物基礎等により江戸時代の遺構面は失われていることが判明しました。

堀石垣は、調査地1（勝木書店跡地）に隣接する歩道において、地表下2.0mで堀石垣の裏を充填している拳大の笏谷石^{しやくたにいし}を確認しました。検出状況からすると、堀石垣は勝木書店境から更に約2～3.0m南の歩道内に位置すると考えられます。また、ユアーズホテル跡地の南・北側歩道部において、地表下2.2mで2段以上積まれた堀石垣を確認しました。石垣石材は笏谷石製で、大きさは幅0.5×奥行0.7×厚さ0.4m程度を測ります。

まとめ 今回の調査では、近代建物の影響により江戸時代の武家屋敷の痕跡は確認できませんでしたが、歩道において堀石垣を検出したことで、これまで不明であった「百間堀」および「南三の丸」の範囲を正確に把握することができました。

（三澤繁忠）



図1 福井城比定図



写真1 調査地遠景(ハピリンから)



写真2 調査地遠景(福井西武から)



写真3 調査状況



図2 調査地全体平面図